

2022. 2. 6 (日) マタイ28:11~15

**28:11** 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

**28:12** そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

**28:13** こう言った。『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

**28:14** もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

**28:15** そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

#### <説教>

本日読まれた聖書の箇所には、イエスのよみがえりの事実がユダヤ人の祭司長たちによって否定された最初の出来事が書かれています。

イエスが死人の中からよみがえり、死に打ち勝たれたという大いなる喜びの知らせ、福音にはすぐに邪魔が入ったのです。

〈彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した〉(28:11)と記されています。

〈彼女たち〉とはマグダラのマリアともう一人のマリアのことでした。(28:1)

彼女たちは、イエスが十字架につけられて死なれ、三日目となる〈週の初めの日〉、日曜日の明け方イエスの墓を見に行きましたが、墓には御使いがいて、イエスが死人の中からよみがえられたこと、イエスが先にガリラヤに行かれるので、そこでイエスに会うことができることを弟子たちに伝えるように彼女たちに言いました。(28:5-7)

〈それで、彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。〉(28:8)のでした。

イエスも彼女たちの前に現れてくださり、弟子たちにガリラヤに行くように言うことをお命じになりました。(28:9-10)

そんな彼女たちが弟子たちのところに行き着くよりも早く、〈番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した〉のです。

彼らは〈主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座った〉こと、〈大きな地震が起こった〉こと(28:2)、〈その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった〉こと(28:3)、自分たちが〈その恐ろしさに震え上がり、死人のようになった〉こと(28:4)、つまり自分たちが目撃したことの〈すべて〉を〈祭司長たちに報告〉し、証言しました。

番兵たちはイエスが墓から出て行かれた姿も見たに違いないと考える注釈者もいます。

〈祭司長たち〉からすれば自分たちの仲間である〈番兵たち〉の証言だったので、それは衝撃的なことだったと思います。

番兵たちの表情や口ぶりからすれば彼らが嘘を言っているとは思えなかったでしょう。

ですから、ここで〈番兵たち〉の証言を聞いた〈祭司長たち〉には、イエスの復活を信

じ、イエスを殺したことを悔い改めて、イエスを信じるチャンスがありました。

しかし、彼らは復活のイエスを信ぜず、そのまま不信仰のうちにとどまりました。

〈そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、こう言った。『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。』〉(28:12-14)

〈祭司長たち〉と〈長老たち〉は自分たちの願いどおりにイエスを殺すことに成功していましたがイエスのよみがえりを認めてしまえば自分たちの負けです。

自分たちが取り返しのつかない間違いを犯してしまったこととなりますからそんなことは認めるわけにはいきませんでした。

本当は素直に自分たちの過ちを認めて悔い改め、イエスを信じれば良かったのですが、そうしませんでした。

イエスを殺した自分たちが正しかったと言い張らなければなりません。

そのためにはイエスがよみがえったと人々に知られては困ります。

『わたしは三日後によみがえる』と言っていたイエスが本当にそのとおりによみがえった。やっぱりイエスは神の子キリストだ。」などと人々の間に広まることだけでは何としても阻止しなければなりません。

それで、〈番兵たち〉が自分たちに〈報告した〉ことが人々には知られないような方法を考えるために〈集まって協議し〉たのです。

その結果、〈兵士たちに多額の金を与えて〉、つまり賄賂によって真実を語らせない、嘘をつくようにさせたのです。

〈兵士たちに多額の金〉ということですから、おそらくかつてイスカリオテのユダ一人に与えた額よりもっと大きかったのでしょう。

しかし、それほどのことをしてまでも、とにかくどうかしてイエスがよみがえれたということが人々に知られては困るし、信じられてはならなかったのです。

後に彼らは、使徒たちが〈民を教え、イエスを例にあげて死者の中からの復活を宣べ伝えていることに苛立〉ったのであり(使徒 4:2)、また「私たちの父祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを、よみがえらせました。…私たちはこれらのことの証人です。…」との使徒たちの証言(使徒 5:30-32)を聞いて〈怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えた〉(使徒 5:33)のでした。

イエスが本当に生ける神の御子キリストなのか否か、罪と死に打ち勝った救い主なのか否かは、イエスが死者の中から復活したのか否かにかかっているのです。

そのようなイエスのよみがえりの証言を、相変わらず不信仰で悔い改めなかった〈祭司長たち〉は隠滅しようとしてしました。

また一度は本当のことを証言した〈兵士たち〉も〈多額の金〉に目がくらみ、〈金をもって、言われたとおりに〉嘘を言い触らしました。(28:15)

その効果あって〈この話は今日までユダヤ人の間に広まっている〉とマタイは記します。

こうして〈祭司長たち〉によるイエスの復活という真理、神のみわざが否定され、また復活のイエスを信じる弟子たちに愚か者で嘘つきというレッテル貼りが一応は成功したと言えるでしょう。

そのことは確かに〈今日まで〉続いているし、世の終わりまで続くことでしょう。

私たちも、さすがに「金をあげるからイエスの復活のことなど信じるな、言うな。精々十字架くらいにしておけ。」などと言われることはないかもしれませんが、「そんなばかなことを信じているのか」と言われ、嘲られることはあるわけです。

しかし、そんなときこそは、私たちの信仰の鍛練のために神が与えてくださる良いチャンスなのです。

「はい。キリストは聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれ…よみがえられました。」(cf. I コリント 15:3-4)と堂々と証言するのです。

マタイ（だけですが）が〈この話〉(15:11-15)をわざわざ記した目的は、イエスの復活を否定する話の出処（でどころ）が実はこんなおそまつな嘘、ごまかしによることだったことを明らかにし、イエスの復活を否定する方こそ実は愚かで真理ではないことを明らかにするためだったと考えられるのです。